

たじみん昼話 110

対推薦入試編～面接で抜きこむために

高倍率になりがちな推薦入試の面接で勝つためには、今からいろいろと準備しておく必要がある。今回は、面接に臨むための所作の部分を考察する。

①入退室時のアイコンタクトを究めよう

入室時は極度の緊張状態に、退室時は「終了だ」という安ど感や緊張からの解放で気が緩みやすく、動きがおかしくなりやすいので注意したい。裏を返せばここが他の受験生との差別化のチャンスであると考えたい。

この入退室時に気を付けるべきことは、しっかりアイコンタクトを取ることだ。自分では見ているつもりでも、面接官側からは「見ていないな」と取られている場合が少なくない。アイコンタクトは目と目で会話する大事なコミュニケーションのひとつに位置づけられている。挨拶しながら行う程よいアイコンタクト法を練習しておこう。ポイント①、面接のつかみはここで決まる。

②挨拶時の所作の美しさに拘ろう

次に拘るべきは動きの所作だ。アイコンタクト後の挨拶は、背筋を伸ばすことはもちろん指先の伸びまで意識したい。ウエストから30度ほど上体を傾けるのが美しいお辞儀の基本だ。

しかし、ここまではどこの学校でも指導している項目であり、普通の高校生なら身につけているだろう。差をつけるのは頭を上げる動きだ。気にしていない人が多いので注意したい。上げるときは早すぎتهはいけない。ゆっくり行うことが好印象を与える上げ方だ。「よろしくお願ひします」という気持ちを伝えるお辞儀の後、ポイント②、頭の上げ方に最大の注意を払おう。

この意識が動作にメリハリを持たせ、他の受験生との大きな差別化に貢献するのだ。この挨拶で、「この人は違ふ」という感じを面接官に与えて印象を数段アップさせて質疑応答に挑みたい。これにより面接の流れも整うのでお薦めだ。普段の生活のなかで練習しておこう。

ここで紹介した2点の動作をエレガントに出来るまで磨こう。社会人になっても通用する所作として役立つだろう。多治高生の成功を祈る